



CHAPTER 7

スイッチ管理の実行

この章ではスイッチを管理するための 1 回限りの手順について説明しています。

機能情報の確認

ご使用のソフトウェア リリースでは、この章で説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の機能情報と注意事項については、ご使用のプラットフォームとソフトウェア リリースに対応したリリース ノートを参照してください。

プラットフォームのサポートおよびシスコ ソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator には、<http://www.cisco.com/go/cfn> からアクセスします。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

スイッチ管理の実行に関する情報

システム日時の管理

ネットワーク タイム プロトコル (NTP) などの自動設定方式、または手動設定方式を使用して、スイッチのシステム日時を管理します。

システム クロック

時刻サービスの基準となるのはシステム クロックです。このクロックはシステムがスタートアップした瞬間から稼働し、日時を常時トラッキングします。

システム クロックは、次のソースにより設定できます。

- NTP
- 手動設定

システム クロックは、次のサービスに時刻を提供します。

- ユーザの **show** コマンド
- ログおよびデバッグ メッセージ

システム クロックは、協定世界時 (UTC) (別名グリニッジ標準時 (GMT)) に基づいてシステム内部の時刻を常時トラッキングします。ローカルのタイム ゾーンおよび夏時間に関する情報を設定することにより、時刻がローカルのタイム ゾーンに応じて正確に表示されるようにできます。

システムクロックは、時刻に信頼性があるかどうか（つまり、信頼できると見なされるタイムソースによって時刻が設定されているか）を常時トラッキングします。信頼性のない場合は、時刻は表示目的でのみ使用され、再配信されません。設定については、「[手動での日時の設定](#)」(P.7-9)を参照してください。

ネットワーク タイム プロトコル

NTPは、ネットワーク上のデバイス間の時刻の同期化を目的に設計されています。NTPはユーザデータグラムプロトコル(UDP)で稼働し、UDPはIP上で稼働します。NTPはRFC 1305に規定されています。

NTPネットワークは通常、ラジオクロックやタイムサーバに接続された原子時計など、信頼できるタイムソースからその時刻を取得します。NTPは、ネットワークにこの時刻を分配します。NTPはきわめて効率的で、1分間に1パケットを使用するだけで、2台のデバイスを1ミリ秒以内に同期化できます。

NTPは、ストラタム(階層)という概念を使用して、信頼できるタイムソースとデバイスが離れているNTPホップを記述します。ストラタム1タイムサーバには、ラジオクロックまたは原子時計が直接接続されており、ストラタム2タイムサーバは、NTPを使用してストラタム1タイムサーバから時刻を取得します(以降のストラタムも同様です)。NTPが稼働するデバイスは、タイムソースとして、NTPを使用して通信するストラタム番号が最小のデバイスを自動的に選択します。この方法によって、NTP時刻配信の自動編成型ツリーが効率的に構築されます。

NTPでは、同期化されていないデバイスと同期化しないことによって、時刻が正確でないデバイスとの同期化を防ぎます。また、NTPでは、複数のデバイスから報告される時刻を比較して、ストラタムの番号が小さくても、時刻が他のデバイスと大幅に異なるデバイスとは同期化しません。

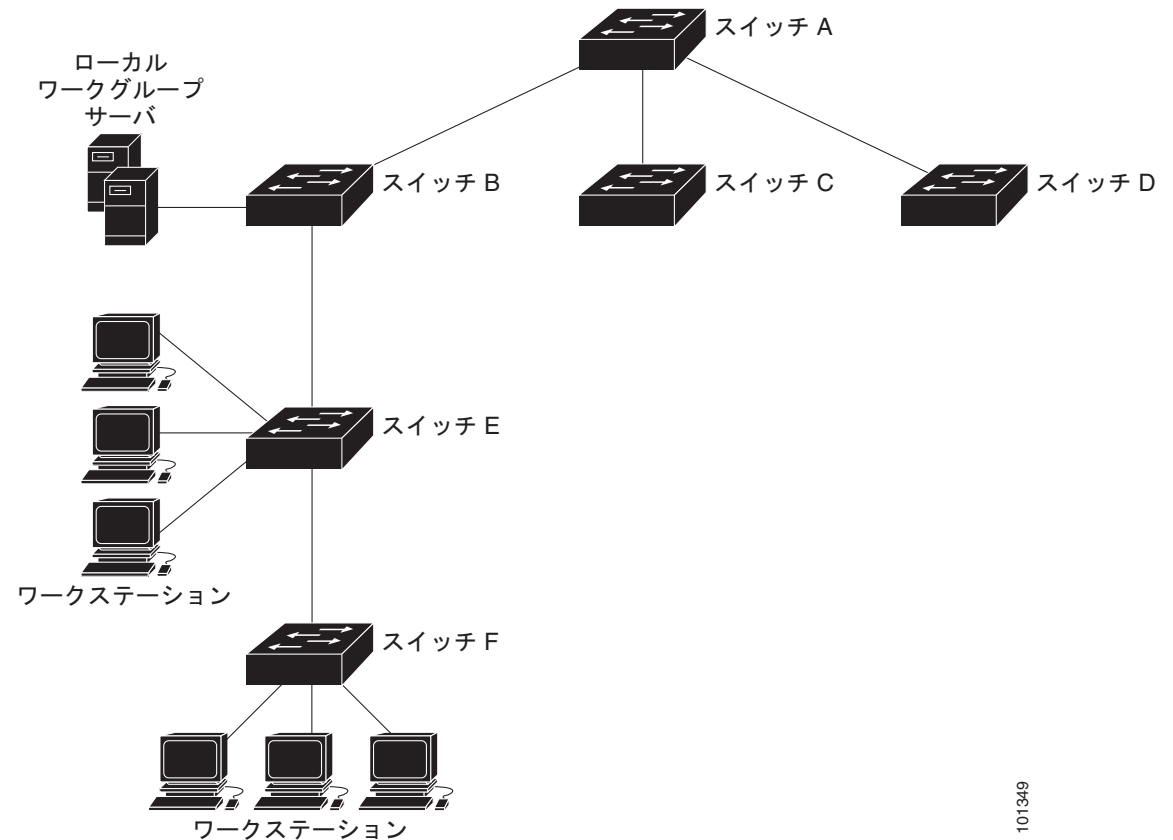
NTPが稼働するデバイス間の通信(アソシエーション)は、通常静的に設定されます。各デバイスには、アソシエーションを作成すべきすべてのデバイスのIPアドレスが与えられます。アソシエーションのペアとなるデバイス間でNTPメッセージを交換することによって、正確な時刻の維持が可能になります。ただし、LAN環境では、代わりにIPブロードキャストメッセージを使用するようにNTPを設定できます。各デバイスを、単にブロードキャストメッセージを送受信するように設定すればよいので、この代替手段によって設定の複雑さが緩和されます。ただし、情報の流れは一方に限定されません。

デバイス上で維持される時刻は、重要なリソースです。NTPのセキュリティ機能を使用して、不正確な時刻が誤ってあるいは意図的に設定されることを防止してください。その方法として、アクセスリストベースの制約方式と暗号化認証方式があります。

シスコのNTPではストラタム1サービスをサポートしていないので、ラジオクロックまたは原子時計に接続できません。ネットワークの時刻サービスは、IPインターネット上のパブリックNTPサーバから取得することを推奨します。

図 7-1 に、NTP を使用する一般的なネットワーク例を示します。スイッチ A は、NTP サーバ モードで設定したスイッチ B、C、D の NTP マスターです。スイッチ B、C、D とスイッチ A との間にはサーバ アソシエーションが設定されています。スイッチ E は、アップストリーム スイッチ (スイッチ B) およびダウンストリーム スイッチ (スイッチ F) の NTP ピアとして設定されています。

図 7-1 一般的な NTP ネットワークの構成



101349

ネットワークがインターネットから切り離されている場合、シスコの NTP によって、実際には、他の方法で時刻を学習しているにもかかわらず、デバイスが NTP を使用して同期化しているように動作を設定できます。他のデバイスは、NTP によりこのデバイスと同期化されます。

複数のタイム ソースがある場合は、NTP は常に、より信頼性があると見なされます。NTP の時刻は、他の方法による時刻に優先します。

自社のホスト システムに NTP ソフトウェアを組み込んでいるメーカーが数社あり、UNIX システム用のバージョンやその派生ソフトウェアも一般に入手できます。このソフトウェアによって、ホスト システムも時間が同期化されます。

NTP バージョン 4

NTP バージョン 4 が、スイッチに実装されています。NTPv4 は NTP バージョン 3 の拡張版です。NTPv4 は IPv4 と IPv6 の両方をサポートし、NTPv3 との下位互換性があります。

NTPv4 は次の互換性を提供します。

- IPv6 のサポート。

- NTPv3 よりさらに向上したセキュリティ。NTPv4 プロトコルは、公開キー暗号化および標準 X509 認証に基づくセキュリティ フレームワークを提供します。
- ネットワークに対する時間分布ヒエラルキーの自動計算。特定のマルチキャスト グループを使用して、NTPv4 は、最も低い帯域幅コストで最高の時間精度を達成するサーバのヒエラルキーを自動的に設定します。この機能では、サイトローカル IPv6 マルチキャスト アドレスが活用されません。

NTPv4 設定の詳細については、Cisco.com で『Cisco IOS IPv6 Configuration Guide』を参照してください。

DNS

ドメイン ネーム システム (DNS) プロトコルは、分散型データベース DNS を制御し、これによりホスト名を IP アドレスにマッピングできます。スイッチ上に DNS を設定すると、**ping**、**telnet**、**connect** などのすべての IP コマンドや、関連する Telnet サポート操作時に、IP アドレスの代わりにホスト名を使用できます。

IP によって定義される階層型の命名方式では、デバイスを場所またはドメインで特定できます。ドメイン名は、ピリオド (.) を区切り文字として使用して構成されています。たとえば、シスコは、IP で *com* というドメイン名に分類される商業組織なので、ドメイン名は *cisco.com* となります。このドメイン内の特定のデバイス、たとえばファイル転送プロトコル (FTP) システムは、*ftp.cisco.com* で表されます。

IP ではドメイン名をトラッキングするために、ドメイン ネーム サーバという概念が定義されています。ドメイン ネーム サーバの役割は、名前から IP アドレスへのマッピングをキャッシュ (またはデータベース) に保存することです。ドメイン名を IP アドレスにマッピングするには、まず、ホスト名を明示し、ネットワーク上に存在するネーム サーバを指定し、DNS をイネーブルにします。

DNS のデフォルト設定

表 7-1 に、DNS のデフォルト設定を示します。

表 7-1 DNS のデフォルト設定

機能	デフォルト設定
DNS イネーブル ステート	イネーブル
DNS デフォルト ドメイン名	未設定
DNS サーバ	ネーム サーバのアドレスが未設定

ログイン バナー

今日のお知らせ (MOTD) バナーとログイン バナーを設定できます。MoTD バナーはログイン時に接続しているすべての端末で表示され、すべてのネットワーク ユーザに影響のあるメッセージ (システムのシャットダウン予告など) を送信するのに便利です。

ログイン バナーも、接続しているすべての端末で表示されます。表示されるのは、MoTD バナーの後で、ログイン プロンプトが表示される前です。

MoTD およびログイン バナーは設定されません。

システム名およびプロンプト

スイッチにシステム名を設定して特定します。デフォルトでは、システム名およびプロンプトは *Switch* です。

システム プロンプトを設定していない場合は、システム名の最初の 20 文字をシステム プロンプトとして使用します。大なり記号 (>) が付加されます。システム名が変更されると、プロンプトは更新されます。

MAC アドレス テーブル

MAC アドレス テーブルには、スイッチがポート間のトラフィック転送に使用するアドレス情報が含まれています。このアドレス テーブルに登録されたすべての MAC アドレスは、1 つまたは複数のポートに対応しています。アドレス テーブルに含まれるアドレス タイプには、次のものがあります。

- ダイナミック アドレス：スイッチが学習し、使用されなくなった時点で期限切れとなる送信元 MAC アドレス
- スタティック アドレス：手動で入力され、期限切れにならず、スイッチのリセット時にも消去されないユニキャストアドレス

アドレス テーブルは、宛先 MAC アドレス、対応する VLAN (仮想 LAN) ID、アドレスに対応付けられたポート番号、およびタイプ (スタティックまたはダイナミック) のリストです。

アドレス テーブル

すべてのポートでサポートされる複数の MAC アドレスによって、スイッチの任意のポートを各ワークステーション、リピータ、スイッチ、ルータ、あるいはその他のネットワークデバイスに接続できます。各ポートで受信するパケットの送信元アドレスを取得し、アドレス テーブルにアドレスとその対応するポート番号を追加することによって、スイッチは動的なアドレス指定を行います。ネットワークでステーションの増設または取り外しが行われると、スイッチはアドレス テーブルを更新し、新しいダイナミック アドレスを追加し、使用されていないアドレスは期限切れにします。

エイジング間隔はグローバルに設定されます。ただし、スイッチは VLAN ごとにアドレス テーブルを維持し、STP (スパニングツリー プロトコル) によって VLAN 単位で有効期間を短縮できます。

スイッチは、受信したパケットの宛先アドレスに基づいて、任意の組み合わせのポート間でパケットを送信します。MAC アドレス テーブルを使用することによって、スイッチは、宛先アドレスに対応付けられたポート (複数可) に限定してパケットを転送します。宛先アドレスがパケットを送信したポート上にある場合は、パケットはフィルタリング処理され、転送されません。スイッチは、常にストア アンド フォワード方式を使用します。このため、完全なパケットをいったん保存してエラーがないか検査してから伝送します。

MAC アドレスおよび VLAN

アドレスはすべて、VLAN と対応付けられます。1 つのアドレスを複数の VLAN に対応付け、それぞれ異なる宛先を設定できます。たとえば、ユニキャスト アドレスを VLAN 1 のポート 1 および VLAN 5 のポート 9、10、1 に転送するといったことが可能です。

VLAN ごとに、独自の論理アドレス テーブルが維持されます。ある VLAN で認識されているアドレスが別の VLAN で認識されるには、別の VLAN 内のポートによって学習されるか、または別の VLAN 内のポートにスタティックに対応付けられる必要があります。

プライベート VLAN が設定されている場合、アドレス学習は次のように MAC アドレスのタイプに左右されます。

- プライベート VLAN の 1 つの VLAN で学習したダイナミック MAC アドレスは、関連 VLAN で複製されます。たとえば、プライベート VLAN のセカンダリ VLAN で学習された MAC アドレスはプライマリ VLAN に複製されます。
- プライマリまたはセカンダリ VLAN に設定されたスタティック MAC アドレスは関連 VLAN には複製されません。プライベート VLAN のプライマリまたはセカンダリ VLAN 内にスタティック MAC アドレスを設定した場合、同じスタティック MAC アドレスをすべての関連 VLAN に設定する必要があります。

MAC アドレス テーブルのデフォルト設定

表 7-2 MAC アドレス テーブルのデフォルト設定

機能	デフォルト設定
エージング タイム	300 秒
ダイナミック アドレス	自動学習
スタティック アドレス	未設定

VLAN のアドレス エージング タイム

ダイナミック アドレスは、スイッチが学習し、使用されなくなると期限切れになる送信元 MAC アドレスです。すべての VLAN または指定された VLAN に対して、エージング タイムの設定を変更できます。

エージング タイムを短く設定しすぎると、アドレスが活用されないままテーブルから削除される可能性があります。その場合、スイッチは宛先が不明の packets を受信すると、受信ポートと同じ VLAN 内のすべてのポートに、その packets をフラッディングさせます。この不必要なフラッディングによって、パフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。また、エージング タイムを長く設定しすぎると、アドレス テーブルが未使用のアドレスでいっぱいになり、これによって新しいアドレスを学習できなくなります。この結果フラッディングとなり、スイッチのパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。

MAC アドレス変更通知トラップ

MAC アドレス変更通知は、MAC アドレス変更アクティビティを保存することでネットワーク上のユーザを追跡できます。スイッチが MAC アドレスを学習または削除すると、SNMP 通知トラップを NMS に送信させることができます。ネットワークから多数のユーザの出入りがある場合は、トラップ インターバル タイムを設定して通知トラップを組み込み、ネットワーク トラフィックを削減できます。MAC 通知履歴テーブルは、トラップが設定されたポートごとの MAC アドレス アクティビティを保存します。MAC アドレス変更通知は、ダイナミックまたはセキュア MAC アドレスに対してだけ生成されます。自アドレス、マルチキャストアドレス、または他のスタティック アドレスについては、通知は生成されません。

スタティック アドレス

スタティック アドレスには、次の特性があります。

- アドレス テーブルへの追加およびアドレス テーブルからの削除は、手動で行う必要があります。
- ユニキャストまたはマルチキャスト アドレスとして設定できます。
- 期限切れになることはなく、スイッチが再起動しても維持されます。

スタティック アドレスを追加および削除でき、また、スタティック アドレスの転送動作を定義できます。転送動作は、パケットを受信したポートが、別のポートにパケットを転送する動作を決定します。ポートは必ず少なくとも 1 つの VLAN と対応しているため、スイッチは指定されたポートから、アドレスに対応する VLAN ID を取得します。送信元ポートごとに、宛先ポートのリストを別々に指定できます。

特定のアドレスがスタティックとして入力されていない VLAN に、そのスタティック アドレスを持つパケットが到着すると、すべてのポートにパケットがフラッディングされ、学習されません。

アドレス テーブルにスタティック アドレスを追加するには、宛先 MAC ユニキャスト アドレスと、その送信元 VLAN を指定します。この宛先アドレスで受信したパケットは、`interface-id` オプションで指定されたインターフェイスに転送されます。

プライベート VLAN のプライマリまたはセカンダリ VLAN 内にスタティック MAC アドレスを設定した場合、同じスタティック MAC アドレスをすべての関連 VLAN に設定する必要があります。プライベート VLAN のプライマリまたはセカンダリ VLAN に設定されたスタティック MAC アドレスは関連 VLAN には複製されません。VLAN の詳細については、第 17 章「VLAN の設定」を参照してください。

ユニキャスト MAC アドレス フィルタリング

ユニキャスト MAC アドレス フィルタリングがイネーブルの場合、スイッチは、特定の送信元 MAC アドレスまたは宛先 MAC アドレスを持つパケットをドロップします。この機能はデフォルトではディセーブルで、ユニキャスト スタティック アドレスだけをサポートしています。

この機能を使用する場合は、次の注意事項に従ってください。

- マルチキャスト MAC アドレス、ブロードキャスト MAC アドレス、およびルータ MAC アドレスはサポートされません。 `mac address-table static mac-addr vlan vlan-id drop` グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力するときに、これらのアドレスのいずれかを指定すると、次のいずれかのメッセージが表示されます。

```
% Only unicast addresses can be configured to be dropped
```

```
% CPU destined address cannot be configured as drop address
```

- CPU に転送されるパケットもサポートされません。
- ユニキャスト MAC アドレスをスタティック アドレスとして追加し、ユニキャスト MAC アドレス フィルタリングを設定する場合は、最後に入力されたコマンドに応じて、スイッチは MAC アドレスをスタティック アドレスとして追加するか、またはその MAC アドレスを持つパケットをドロップします。2 番めに入力したコマンドは、最初のコマンドを上書きします。

たとえば、`mac address-table static mac-addr vlan vlan-id interface interface-id` グローバル コンフィギュレーション コマンドの後に `mac address-table static mac-addr vlan vlan-id drop` コマンドを入力した場合は、スイッチは送信元または宛先として指定された MAC アドレスを持つパケットをドロップします。

`mac address-table static mac-addr vlan vlan-id drop` グローバル コンフィギュレーション コマンドの後に `mac address-table static mac-addr vlan vlan-id interface interface-id` コマンドを入力した場合は、スイッチがその MAC アドレスをスタティック アドレスとして追加します。

ユニキャスト MAC アドレス フィルタリングをイネーブルにして、スイッチが特定のアドレスを持つパケットをドロップするように設定するには、送信元または宛先ユニキャスト MAC アドレスおよび受信側の VLAN を指定します。

VLAN の MAC アドレス ラーニング

デフォルトでは、MAC アドレス ラーニングは、スイッチのすべての VLAN でイネーブルです。VLAN で MAC アドレス ラーニングを制御すると、MAC アドレスを学習できる VLAN、さらにポートを制御することで、利用可能な MAC アドレス テーブル スペースを管理できます。MAC アドレス ラーニングをディセーブルにする前に、ネットワーク トポロジとスイッチ システム設定に詳しいことを確認してください。VLAN で MAC アドレス ラーニングをディセーブルにすると、ネットワークでフラッディングを引き起こす可能性があります。

VLAN の MAC アドレス ラーニングをディセーブルにするときは、次の注意事項に従ってください。

- スイッチ仮想インターフェイス (SVI) スイッチを設定済みの VLAN で MAC アドレス ラーニングをディセーブルにする場合は、十分注意してください。この場合、スイッチはレイヤ 2 ドメインにすべての IP パケットをフラッディングします。
- MAC アドレス ラーニングは、1 つの VLAN ID (例: **no mac address-table learning vlan 223**) または VLAN ID の範囲 (例: **no mac address-table learning vlan 1-20, 15**) でディセーブルにすることができます。
- MAC アドレス ラーニングのディセーブル化は、ポートを 2 つ含む VLAN だけで行うことを推奨します。3 つ以上のポートを含む VLAN で MAC アドレス ラーニングをディセーブルにした場合は、スイッチに着信するすべてのパケットは、その VLAN ドメインでフラッディングします。
- スイッチが内部的に使用する VLAN では、MAC アドレス ラーニングをディセーブルにできません。入力した VLAN ID が内部 VLAN である場合は、スイッチはエラーメッセージを生成してコマンドを拒否します。使用している内部 VLAN を表示するには、**show vlan internal usage** 特権 EXEC コマンドを入力します。
- プライベート VLAN のプライマリ VLAN として設定された VLAN で MAC アドレス ラーニングをディセーブルにすると、MAC アドレスは、そのプライベート VLAN に属するセカンダリ VLAN 上で引き続き学習された後、プライマリ VLAN 上で複製されます。プライベート VLAN のプライマリ VLAN でなく、セカンダリ VLAN で MAC アドレス ラーニングをディセーブルにすると、MAC アドレス ラーニングはプライマリ VLAN 上で実行されてセカンダリ VLAN 上で複製されます。
- RSPAN VLAN で MAC アドレス ラーニングはディセーブルにできません。設定すること自体できません。
- セキュア ポートを含む VLAN で MAC アドレス ラーニングをディセーブルにする場合、そのポートで MAC アドレス ラーニングはディセーブルになりません。ポート セキュリティをディセーブルにすると、設定された MAC アドレス ラーニングの状態がイネーブルになります。

VLAN で MAC アドレス ラーニングを再びイネーブルにするには、**default mac address-table learning vlan *vlan-id*** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。**mac address-table learning vlan *vlan-id*** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用しても、VLAN で MAC アドレス ラーニングを再びイネーブルにできます。最初の (**default**) コマンドを使用するとデフォルト状態に戻るため、**show running-config** コマンドからの出力に設定が表示されません。2 番目のコマンドを使用すると、**show running-config** 特権 EXEC コマンド出力に設定が表示されます。

ARP テーブルの管理

デバイスと通信するには（イーサネット上のデバイスなど）、ソフトウェアは最初にそのデバイスの 48 ビット MAC アドレスまたはローカル データ リンク アドレスを学習する必要があります。IP アドレスからローカル データ リンク アドレスを学習するプロセスを、**アドレス解決**といいます。

アドレス解決プロトコル（ARP）は、ホスト IP アドレスを、該当するメディアまたは MAC アドレスおよび VLAN ID に対応付けます。IP アドレスを使用して、ARP は対応する MAC アドレスを見つけます。MAC アドレスが見つかったら、IP と MAC アドレスとの対応を ARP キャッシュに格納し、すばやく検索できるようにします。その後、IP データグラムがリンク層フレームにカプセル化され、ネットワークを通じて送信されます。イーサネット以外の IEEE 802 ネットワークにおける IP データグラムのカプセル化および ARP 要求/応答については、サブネットワーク アクセス プロトコル（SNAP）で規定されています。IP インターフェイスでは、標準的なイーサネット形式の ARP カプセル化（**arpa** キーワードで表される）がデフォルトでイネーブルに設定されています。

手動でテーブルに追加された ARP エントリは期限切れにならないので、手動で削除する必要があります。

スイッチ管理の実行方法

手動での日時の設定

他のタイム ソースが使用できない場合は、システムの再起動後、手動で日時を設定できます。時刻は、次にシステムを再起動するまで正確です。手動設定は最後の手段としてのみ使用することを推奨します。スイッチを同期化できる外部ソースがある場合は、手動でシステム クロックを設定する必要はありません。

システム クロックの設定

ネットワーク上に、NTP サーバなどの時刻サービスを提供する外部ソースがある場合、手動でシステム クロックを設定する必要はありません。

システム クロックを設定するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ1	<pre>clock set hh:mm:ss day month year</pre> または <pre>clock set hh:mm:ss month day year</pre>	次のいずれかの形式で、手動でシステム クロックを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>hh:mm:ss</i> : 時間 (24 時間形式)、分、秒を指定します。指定された時刻は、設定されたタイムゾーンに基づきます。 • <i>day</i> : 月の日で日付を指定します。 • <i>month</i> : 月を名前で指定します。 • <i>year</i> : 年を指定します (常に 4 桁で指定)。

タイムゾーンの設定

`clock timezone` グローバル コンフィギュレーション コマンドの **minutes-offset** 変数は、現地のタイムゾーンと UTC との時差が分単位である場合に使用できます。たとえば、カナダ大西洋沿岸のある区域のタイムゾーン（大西洋標準時（AST））は UTC-3.5 です。この場合、3 は 3 時間、.5 は 50% を意味します。この場合、必要なコマンドは **clock timezone AST -3 30** です。

	コマンド	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>clock timezone zone hours-offset</code> [<i>minutes-offset</i>]	時間帯を設定します。 スイッチは内部時刻を UTC で管理するので、このコマンドは表示目的の場合および手動で時刻を設定した場合に限って使用します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>zone</i> : 標準時が適用されているときに表示されるタイムゾーンの名前を入力します。デフォルトは UTC です。 • <i>hours-offset</i> : UTC からのオフセット時間数を入力します。 • (任意) <i>minutes-offset</i> : UTC からのオフセット分数を入力します。
ステップ3	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。

夏時間の設定

毎年特定の日に夏時間が開始および終了する地域に夏時間を設定するには、次の作業を行います。

	コマンド	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>clock summer-time zone recurring</code> [<i>week day month hh:mm week day month</i> <i>hh:mm [offset]</i>]	毎年指定された日に開始および終了する夏時間を設定します。 夏時間はデフォルトでディセーブルに設定されています。パラメータなしで clock summer-time zone recurring を指定すると、夏時間のルールは米国のルールをデフォルトにします。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>zone</i> : 夏時間が有効な場合に表示される時間帯名（PDT など）を指定します。 • (任意) <i>week</i> : 月の何週目かを指定します（1 ~ 5、または last）。 • (任意) <i>day</i> : 曜日を指定します（Sunday、Monday など）。 • (任意) <i>month</i> : 月を指定します（January、February など）。 • (任意) <i>hh:mm</i> : 時間と分で時刻（24 時間形式）を指定します。 • (任意) <i>offset</i> : 夏時間の間、追加する分数を指定します。デフォルトは 60 です。
ステップ3	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。

夏時間の設定（正確な日付と時刻）

ユーザの居住地の夏時間が定期的なパターンに従わない（次の夏時間の正確な日時を設定する）場合の設定では、次の作業を行います。

	コマンド	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>clock summer-time zone date [month date year hh:mm month date year hh:mm [offset]]</code> または <code>clock summer-time zone date [date month year hh:mm date month year hh:mm [offset]]</code>	最初の日付で夏時間開始の日付を、2 番目の日付で終了の日付を設定します。 夏時間はデフォルトでディセーブルに設定されています。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>zone</i> : 夏時間が有効な場合に表示される時間帯名 (PDT など) を指定します。 • (任意) <i>week</i> : 月の何週目かを指定します (1 ~ 5、または last)。 • (任意) <i>day</i> : 曜日を指定します (Sunday、Monday など)。 • (任意) <i>month</i> : 月を指定します (January、February など)。 • (任意) <i>hh:mm</i> : 時間と分で時刻 (24 時間形式) を指定します。 • (任意) <i>offset</i> : 夏時間の間、追加する分数を指定します。デフォルトは 60 です。
ステップ3	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。

システム名の設定

	コマンド	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>hostname name</code>	手動でシステム名を設定します。 デフォルト設定は <i>switch</i> です。 名前は ARPANET ホスト名のルールに従う必要があります。このルールではホスト名は文字で始まり、文字または数字で終わり、その間には文字、数字、またはハイフンしか使用できません。名前には 63 文字まで使用できます。
ステップ3	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。

DNS の設定

スイッチの IP アドレスをそのホスト名として使用する場合は、IP アドレスが使用され、DNS クエリーは発生しません。ピリオド (.) なしでホスト名を設定すると、ピリオドと、それに続くデフォルトのドメイン名がホスト名に追加され、その後で DNS クエリーが行われ、名前を IP アドレスにマッピングします。デフォルトのドメイン名は、**ip domain-name** グローバル コンフィギュレーション コマンドによって設定される値です。ホスト名にピリオド (.) がある場合は、Cisco IOS ソフトウェアは、ホスト名にデフォルトのドメイン名を追加せずに IP アドレスを検索します。

	コマンド	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>ip domain-name name</code>	非完全修飾ホスト名（ドット付き 10 進表記ドメイン名のない名前）を完成させるためにソフトウェアが使用する、デフォルトのドメイン名を定義します。 ドメイン名を未修飾の名前から区切るために使用される最初のピリオドは入れないでください。 起動時にはドメイン名は設定されていませんが、BOOTP または Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) サーバからスイッチ コンフィギュレーションを取得している場合は、BOOTP または DHCP サーバによってデフォルトのドメイン名が設定されることがあります（サーバにこの情報が設定されている場合）。
ステップ3	<code>ip name-server server-address1</code> [<code>server-address2 ...</code> <code>server-address6</code>]	名前とアドレスの解決に使用する 1 つまたは複数のネーム サーバのアドレスを指定します。 最大 6 つのネーム サーバを指定できます。各サーバアドレスはスペースで区切ります。最初に指定されたサーバが、プライマリ サーバです。スイッチは、最初にプライマリ サーバに DNS クエリーを送信します。そのクエリが失敗した場合は、バックアップ サーバにクエリが送信されます。
ステップ4	<code>ip domain-lookup</code>	(任意) スイッチで、DNS ベースのホスト名のアドレスへの変換をイネーブルにします。この機能は、デフォルトでイネーブルにされています。 ユーザのネットワークデバイスが、名前の割り当てを制御できないネットワーク内のデバイスと接続する必要がある場合、グローバルなインターネットのネーミング方式 (DNS) を使用して、ユーザのデバイスを一意に識別するデバイス名を動的に割り当てることができます。
ステップ5	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。

ログイン バナーの設定

MoTD ログイン バナーの設定

ユーザがスイッチにログインしたときに、画面に表示される 1 行または複数行のメッセージ バナーを作成できます。

	コマンド	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>banner motd c message c</code>	MoTD を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <code>c</code> : 任意の区切り文字、たとえばポンド記号 (#) を入力して、Return キーを押します。区切り文字はバナー テキストの始まりと終わりを表します。終わりの区切り文字の後ろの文字は廃棄されます。 <code>message</code> : 255 文字までのバナー メッセージを入力します。メッセージ内には区切り文字を使用できません。
ステップ3	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。

ログイン バナーの設定

接続されたすべての端末でログイン バナーが表示されるように設定できます。バナーが表示されるのは、MoTD バナーの後に、ログイン プロンプトが表示される前です。

	コマンド	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>banner login c message c</code>	ログイン メッセージを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <code>c</code> : 任意の区切り文字、たとえばポンド記号 (#) を入力して、Return キーを押します。区切り文字はバナー テキストの始まりと終わりを表します。終わりの区切り文字の後ろの文字は廃棄されます。 • <code>message</code> : 255 文字までのログイン メッセージを入力します。メッセージ内には区切り文字を使用できません。
ステップ3	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。

MAC アドレス テーブルの管理

アドレス エージング タイムの変更

	コマンド	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>mac address-table aging-time [0 10-1000000] [vlan vlan-id]</code>	ダイナミック エントリが使用または更新された後、MAC アドレス テーブル内に保持される時間を設定します。 指定できる範囲は 10 ~ 1000000 秒です。デフォルトは 300 です。0 を入力して期限切れをディセーブルにすることもできます。スタティック アドレスは、期限切れになることもテーブルから削除されることもありません。 • <code>vlan-id</code> : 指定できる ID の範囲は 1 ~ 4096 です。
ステップ3	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。

MAC アドレス変更通知トラップの設定

	コマンド	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>snmp-server host host-addr {traps informs} {version {1 2c 3}} community-string notification-type</code>	<p>トラップ メッセージの受信側を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • host-addr : NMS の名前または IP アドレスを指定します。 • traps (デフォルト) : SNMP トラップをホストに送信します。 • informs : SNMP 情報をホストに送信します。 • サポートする SNMP バージョンを指定します。informs にはバージョン 1 (デフォルト) を使用できません。 • community-string : 通知動作時に送信するストリングを指定します。snmp-server host コマンドを使用してこのストリングを設定できますが、このストリングを定義するには、snmp-server community コマンドを使用し、次に snmp-server host コマンドを使用することを推奨します。 • notification-type : mac-notification キーワードを使用します。
ステップ3	<code>snmp-server enable traps mac-notification change</code>	スイッチが MAC アドレス変更通知を NMS に送信できるようにします。
ステップ4	<code>mac address-table notification change</code>	MAC アドレス変更通知機能をイネーブルにします。
ステップ5	<code>mac address-table notification change [interval value] [history-size value]</code>	<p>トラップ インターバル タイムと履歴テーブルのサイズを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • (任意) interval value : NMS に生成されるトラップの各セット間の通知トラップ インターバルを秒単位で指定します。指定できる範囲は 0 ~ 2147483647 秒です。デフォルトは 1 秒です。 • (任意) history-size value : MAC 通知履歴テーブルの最大エントリ数を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 500 です。デフォルトは 1 です。
ステップ6	<code>interface interface-id</code>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、SNMP MAC アドレス通知トラップをイネーブルにするレイヤ 2 インターフェイスを指定します。

	コマンド	目的
ステップ7	<code>snmp trap mac-notification change {added removed}</code>	インターフェイス上で MAC アドレス変更通知トラップをイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"> MAC アドレスがインターフェイスに追加された場合にトラップをイネーブルにします。 MAC アドレスがインターフェイスから削除された場合に MAC 通知トラップをイネーブルにします。
ステップ8	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。

MAC アドレス移動通知トラップの設定

MAC 移動通知を設定する場合は、MAC アドレスが、同じ VLAN 内のあるポートから別のポートに移動すると常に、SNMP 通知が生成されてネットワーク管理システムに送信されます。

	コマンド	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>snmp-server host host-addr {traps informs} {version {1 2c 3}} community-string notification-type</code>	トラップ メッセージの受信側を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> host-addr : NMS の名前または IP アドレスを指定します。 traps (デフォルト) : ホストに SNMP トラップを送信します。 informs : SNMP 情報をホストに送信します。 version : サポートする SNMP バージョンを指定します。informs にはバージョン 1 (デフォルト) を使用できません。 community-string : 通知動作時に送信するストリングを指定します。snmp-server host コマンドを使用してこのストリングを設定できますが、このストリングを定義するには、snmp-server community コマンドを使用し、次に snmp-server host コマンドを使用することを推奨します。 notification-type : mac-notification キーワードを使用します。
ステップ3	<code>snmp-server enable traps mac-notification move</code>	スイッチが MAC アドレス移動通知トラップを NMS に送信できるようにします。
ステップ4	<code>mac address-table notification mac-move</code>	MAC アドレス移動通知機能をイネーブルにします。
ステップ5	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。

MAC しきい値通知トラップの設定

MAC しきい値通知を設定する場合は、MAC アドレス テーブルのしきい値の制限値に達するか、その値を超えると、SNMP 通知が生成されてネットワーク管理システムに送信されます。

	コマンド	目的
ステップ1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	snmp-server host <i>host-addr</i> { traps informs } { version { 1 2c 3 } } <i>community-string notification-type</i>	<p>トラップ メッセージの受信側を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • host-addr : NMS の名前または IP アドレスを指定します。 • traps (デフォルト) : ホストに SNMP トラップを送信します。 • informs : SNMP 情報をホストに送信します。 • version : サポートする SNMP バージョンを指定します。informs にはバージョン 1 (デフォルト) を使用できません。 • community-string : 通知動作時に送信するストリングを指定します。snmp-server host コマンドを使用してこのストリングを設定できますが、このストリングを定義するには、snmp-server community コマンドを使用し、次に snmp-server host コマンドを使用することを推奨します。 • notification-type : mac-notification キーワードを使用します。
ステップ3	snmp-server enable traps mac-notification threshold	スイッチによる MAC しきい値通知トラップの NMS への送信をイネーブルにします。
ステップ4	mac address-table notification threshold	MAC アドレスしきい値通知機能をイネーブルにします。
ステップ5	mac address-table notification threshold [limit percentage] [interval time]	<p>MAC アドレスしきい値の使用状況モニタのしきい値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • (任意) limit percentage : MAC アドレス テーブルの使用率を指定します。有効な値は 1 ~ 100 です。デフォルト値は 50% です。 • (任意) interval time : 通知間隔を指定します。有効な値は、120 秒以上です。デフォルトは 120 秒です。
ステップ6	end	特権 EXEC モードに戻ります。

スタティック アドレス エントリの追加および削除

	コマンド	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>mac address-table static mac-addr vlan vlan-id interface interface-id</code>	<p>MAC アドレス テーブルにスタティック アドレスを追加します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>mac-addr</i> : 宛先 MAC ユニキャスト アドレスをアドレス テーブルに追加します。この宛先アドレスを持つパケットが指定した VLAN に着信すると、指定したインターフェイスに転送されます。 <i>vlan-id</i> : 指定された MAC アドレスを持つパケットを受信する VLAN を指定します。指定できる VLAN ID の範囲は 1 ~ 4096 です。 <i>interface-id</i> : 受信したパケットの転送先インターフェイスを指定します。有効なインターフェイスは、物理ポートまたはポート チャネルです。スタティック マルチキャスト アドレスの場合、複数のインターフェイス ID を入力できます。スタティック ユニキャスト アドレスの場合、インターフェイスは同時に 1 つしか入力できません。ただし、同じ MAC アドレスおよび VLAN ID を指定すると、コマンドを複数回入力できます。
ステップ3	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。

ユニキャスト MAC アドレス フィルタリングの設定

	コマンド	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>mac address-table static mac-addr vlan vlan-id drop</code>	<p>ユニキャスト MAC アドレス フィルタリングをイネーブルにし、スイッチが指定した送信元または宛先ユニキャスト スタティック アドレスを持つパケットをドロップするように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>mac-addr</i> : 送信元または宛先ユニキャスト MAC アドレスを指定します。この MAC アドレスを持つパケットはドロップされます。 <i>vlan-id</i> : 指定された MAC アドレスを持つパケットを受信する VLAN を指定します。指定できる VLAN ID の範囲は 1 ~ 4096 です。
ステップ3	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。

VLAN の MAC アドレス ラーニングのディセーブル化

	コマンド	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>no mac address-table learning vlan vlan-id</code>	指定された 1 つまたは複数の VLAN で MAC アドレス ラーニングをディセーブルにします。1 つの VLAN ID を指定、または VLAN ID の範囲をハイフンまたはカンマで区切って指定できます。指定できる VLAN ID の範囲は 1 ~ 4096 です。
ステップ3	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。

スイッチ管理のモニタリングおよびメンテナンス

コマンド	目的
<code>clear mac address-table dynamic</code>	すべてのダイナミック エントリを削除します。
<code>clear mac address-table dynamic address <i>mac-address</i></code>	特定の MAC アドレスを削除します。
<code>clear mac address-table dynamic interface <i>interface-id</i></code>	指定された物理ポートまたはポート チャネル上のすべてのアドレスが削除されます。
<code>clear mac address-table dynamic vlan <i>vlan-id</i></code>	特定の VLAN 上のすべてのアドレスが削除されます。
<code>show clock [detail]</code>	時刻と日付の設定を表示します。
<code>show ip igmp snooping groups</code>	すべての VLAN または指定された VLAN に対するレイヤ 2 マルチキャスト エントリを表示します。
<code>show mac address-table address</code>	指定された MAC アドレスの MAC アドレス テーブル情報を表示します。
<code>show mac address-table aging-time</code>	すべての VLAN または指定された VLAN のエージング タイムを表示します。
<code>show mac address-table count</code>	すべての VLAN または指定された VLAN で存在しているアドレス数を表示します。
<code>show mac address-table dynamic</code>	ダイナミック MAC アドレス テーブル エントリのみを表示します。
<code>show mac address-table interface</code>	指定されたインターフェイスの MAC アドレス テーブル情報を表示します。
<code>show mac address-table learning</code>	すべての VLAN または指定した VLAN の MAC アドレス ラーニングのステータスを表示します。
<code>show mac address-table notification</code>	MAC 通知パラメータおよび履歴テーブルを表示します。
<code>show mac address-table static</code>	スタティック MAC アドレス テーブル エントリだけを表示します。
<code>show mac address-table vlan</code>	指定された VLAN の MAC アドレス テーブル情報を表示します。

スイッチ Administration を実行する場合のコンフィギュレーション例

システム クロックの設定例

次に、システム クロックを手動で 2001 年の 7 月 23 日午後 1 時 32 分に設定する例を示します。

```
Switch# clock set 13:32:00 23 July 2001
```

夏時間：例

clock summer-time グローバル コンフィギュレーション コマンドの最初の部分では夏時間の開始時期を、2 番目の部分では終了時期を指定します。すべての時刻は、現地のタイムゾーンを基準にしています。開始時間は標準時を基準にしています。終了時間は夏時間を基準にしています。開始月が終了月より後の場合は、システムでは南半球にいると見なされます。

次に、夏時間が、4 月の第 1 日曜日の 02:00 に開始し、10 月の最終日曜日の 02:00 で終了するように指定する例を示します。

```
Switch(config)# clock summer-time PDT recurring 1 Sunday April 2:00 last Sunday October 2:00
```

次に、夏時間が 2000 年 10 月 12 日の 2 時に始まり、2001 年 4 月 26 日の 2 時に終わるように設定する例を示します。

```
Switch(config)# clock summer-time pdt date 12 October 2000 2:00 26 April 2001 2:00
```

MOTD バナーの設定：例

次に、ポンド記号 (#) を開始および終了の区切り文字として使用し、スイッチの MoTD バナーを設定する例を示します。

```
Switch(config)# banner motd #
This is a secure site. Only authorized users are allowed.
For access, contact technical support.
#
Switch(config)#
```

次に、前の設定により表示されたバナーの例を示します。

```
Unix> telnet 172.2.5.4
Trying 172.2.5.4...
Connected to 172.2.5.4.
Escape character is '^]'.

This is a secure site. Only authorized users are allowed.
For access, contact technical support.

User Access Verification

Password:
```

ログイン バナーの設定：例

次に、ドル記号 (\$) を開始および終了の区切り文字として使用し、スイッチのログイン バナーを設定する例を示します。

```
Switch(config)# banner login $
Access for authorized users only. Please enter your username and password.
$
Switch(config)#
```

設定の MAC アドレス変更通知トラップ：例

次に、NMS として 172.20.10.10 を指定し、スイッチによる NMS への MAC アドレス通知トラップの送信をイネーブルにし、MAC アドレス変更通知機能をイネーブルにし、インターバル タイムを 123 秒に設定し、履歴サイズを 100 エントリに設定し、特定のポートで MAC アドレスが追加された場合のトラップをイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# snmp-server host 172.20.10.10 traps private mac-notification
Switch(config)# snmp-server enable traps mac-notification change
Switch(config)# mac address-table notification change
Switch(config)# mac address-table notification change interval 123
Switch(config)# mac address-table notification change history-size 100
Switch(config)# interface gigabitethernet1/2
```

```
Switch(config-if)# snmp trap mac-notification change added
```

MAC アドレス移動通知トラップの送信：例

次に、NMS として 172.20.10.10 を指定し、スイッチによる NMS への MAC アドレス移動通知トラップの送信をイネーブルにし、MAC アドレス移動通知機能をイネーブルにし、あるポートから別のポートに MAC アドレスが移動した場合にトラップをイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# snmp-server host 172.20.10.10 traps private mac-notification
Switch(config)# snmp-server enable traps mac-notification move
Switch(config)# mac address-table notification mac-move
```

設定 MAC しきい値通知トラップ：例

次に、NMS として 172.20.10.10 を指定し、MAC アドレスしきい値通知機能をイネーブルにし、インターバル タイムを 123 秒に設定し、制限を 78% に設定する例を示します。

```
Switch(config)# snmp-server host 172.20.10.10 traps private mac-notification
Switch(config)# snmp-server enable traps mac-notification threshold
Switch(config)# mac address-table notification threshold
Switch(config)# mac address-table notification threshold interval 123
Switch(config)# mac address-table notification threshold limit 78
```

MAC アドレス テーブルにスタティック アドレスを追加：例

次の例では、MAC アドレス テーブルにスタティック アドレス c2f3.220a.12f4 を追加する方法を示します。VLAN 4 でこの MAC アドレスを宛先アドレスとしてパケットを受信すると、パケットは指定されたポートに転送されます。

```
Switch(config)# mac address-table static c2f3.220a.12f4 vlan 4 interface
gigabitethernet1/1
```

設定するユニキャスト MAC アドレス フィルタリング：例

次の例では、ユニキャスト MAC アドレス フィルタリングをイネーブルにし、c2f3.220a.12f4 の送信元または宛先アドレスを持つパケットをドロップするようにスイッチを設定する方法を示します。送信元または宛先としてこの MAC アドレスを持つパケットが VLAN4 上で受信された場合、パケットがドロップされます。

```
Switch(config)# mac address-table static c2f3.220a.12f4 vlan 4 drop
```

その他の関連資料

ここでは、スイッチ管理に関する参考資料について説明します。

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IE 2000 コマンド	『Cisco IE 2000 Switch Command Reference, Release 15.0(1)EY』
Cisco IOS 基本コマンド	『Cisco IOS Configuration Fundamentals Command Reference』
Cisco IOS ルーティング コマンド	『Cisco IOS IP Command Reference, Volume 2 of 3: Routing Protocols』

標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	—

MIB

MIB	MIB のリンク
—	Cisco IOS XR ソフトウェアを使用して MIB を検索およびダウンロードするには、 http://cisco.com/public/sw-center/netmgmt/cmtk/mibs.shtml にある Cisco MIB Locator を使用し、[Cisco Access Products] メニューからプラットフォームを選択します。

RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	—

シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
シスコのテクニカル サポート Web サイトでは、製品、テクノロジー、ソリューション、技術的なヒント、およびツールへのリンクなどの、数千ページに及ぶ技術情報が検索可能です。Cisco.com に登録済みのユーザは、このページから詳細情報にアクセスできます。	http://www.cisco.com/en/US/support/index.html

